

飯田市水道事業経営戦略の概要

○背景

平成 28 年1月 26 日に総務省より、経営戦略の策定率を平成 32 年度までに 100%とする旨通知された。
飯田市では「飯田市水道ビジョン」の改定に合わせて、平成 28 年度中に策定することとした。

○策定の趣旨

「飯田市水道ビジョン(改定版)」に基づく、今後の水道事業の投資・財政計画(経営見通し)を明らかにすることで、安定的な経営を図る。

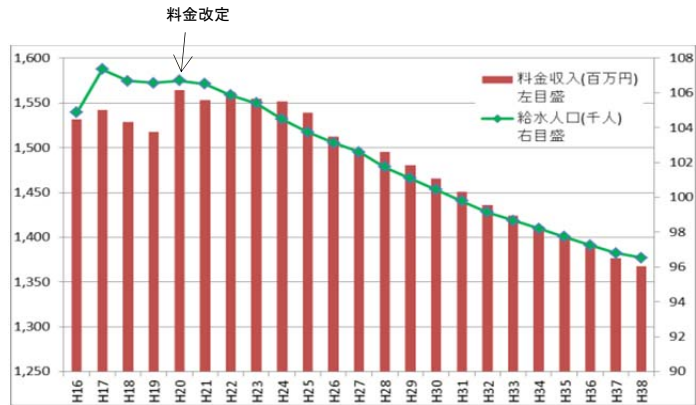
○計画期間

平成 29 年度～平成 38 年度(「飯田市水道ビジョン(改定版)」と同じ)

○将来の事業環境

「飯田市人口ビジョン」を基に将来の
給水人口を推定→給水人口の減少に
伴い料金収入も減少する見込み

給水人口と料金収入の経過と今後の
見込み(上水、簡水計) →

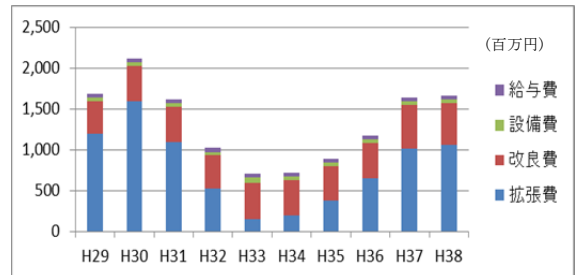


○投資・財政計画(経営見通し)

建設改良事業の内訳

(千円)

項目	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
建設改良費	1,687,000	2,117,000	1,617,000	1,019,000	704,665	721,000	885,000	1,167,000	1,635,000	1,664,000
拡張費	1,190,000	1,598,000	1,091,000	529,000	148,000	197,000	371,000	653,000	1,016,000	1,055,000
リーフ関連新設									300,000	
三遠南信関連									110,000	
妙琴第1期		2,642,000								
妙琴第2期								2,083,000		
遠山浄水施設		28,000								
今宮中継ポンプ		490,000								100,000
鼎配水池	246,000									
上郷第4配水池		299,000								
入野・大瀬木						577,000				
改良費	408,000	430,000	437,000	401,000	439,000	435,000	425,000	425,000	530,000	520,000
原水浄水費	178,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000
配水給水費	230,000	260,000	267,000	231,000	269,000	265,000	255,000	255,000	360,000	350,000
リーフ関連更新									200,000	
老朽管更新									1,662,000	
設備費	43,000	43,000	43,000	43,000	71,665	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000
職員給与費	46,000	46,000	46,000	46,000	46,000	46,000	46,000	46,000	46,000	46,000



妙琴浄水場更新整備事業第1期、第2期
工事の影響で平成 30 年度及び平成 37,38
年度の建設改良費は増大する見込み

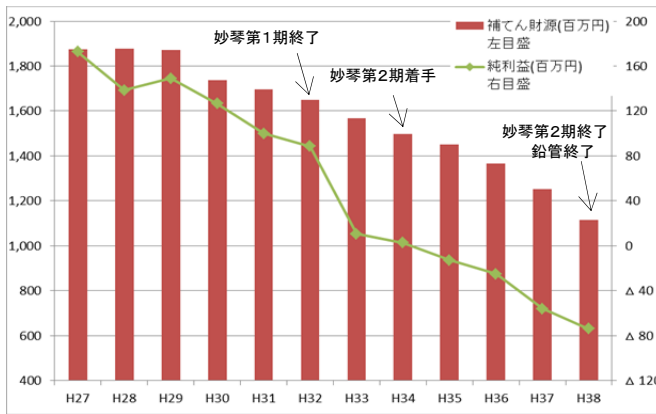
↑ 青帯は「飯田市水道ビジョン(改定版)」掲載事業

建設改良事業の財源

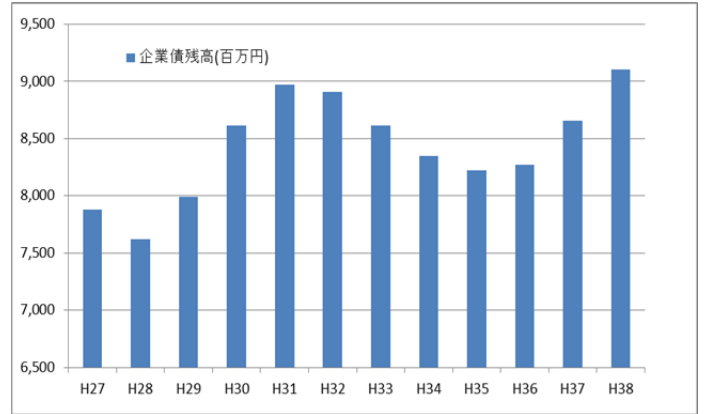
項目	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
国庫補助金	3,967	6,474	7,891	5,013	0	0	4,200	0	0	0
企業債	951,800	1,220,800	889,400	474,500	248,400	268,600	413,400	601,400	929,500	958,000
出資金	210,700	244,300	194,200	63,600	1,800	19,500	60,200	122,900	206,100	185,600
補償金	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
内部留保資金	500,533	625,426	505,509	455,887	434,465	412,900	387,200	422,700	479,400	500,400
合計	1,687,000	2,117,000	1,617,000	1,019,000	704,665	721,000	885,000	1,167,000	1,635,000	1,664,000

○今後の経営状況

純利益と補てん財源残高の見込み



企業債残高の見込み



給水収益の減少などにより、純利益は年々減少していく見込み。特に妙琴浄水場更新整備事業第1期工事終了の次年度にあたる平成33年度は減価償却費が大幅に増大するため、純利益が急激に悪化する見込み。平成35年度以降は赤字が発生しその額も増加していく状況となる。

補てん財源の活用と企業債の借入れによって、事業運営に必要な資金は確保できる見込みだが、補てん財源残高の減少と企業債残高の増加により、計画期間の後半には適正な料金について検証しなければならないと予想される。

○効率化・経営健全化の取組

- ・施設の統廃合の検討
- ・広域連携の検討
- ・人材育成(職員研修の充実)
- ・自然エネルギーの活用

○見直しのサイクル 3年毎